

Crystal

original home of the
m. Known as Crystal
ommissioned in 1913
C. D. Stimson and
t Marcus Priteca, a
designer famed for
iseum, Paramount,
theatres.

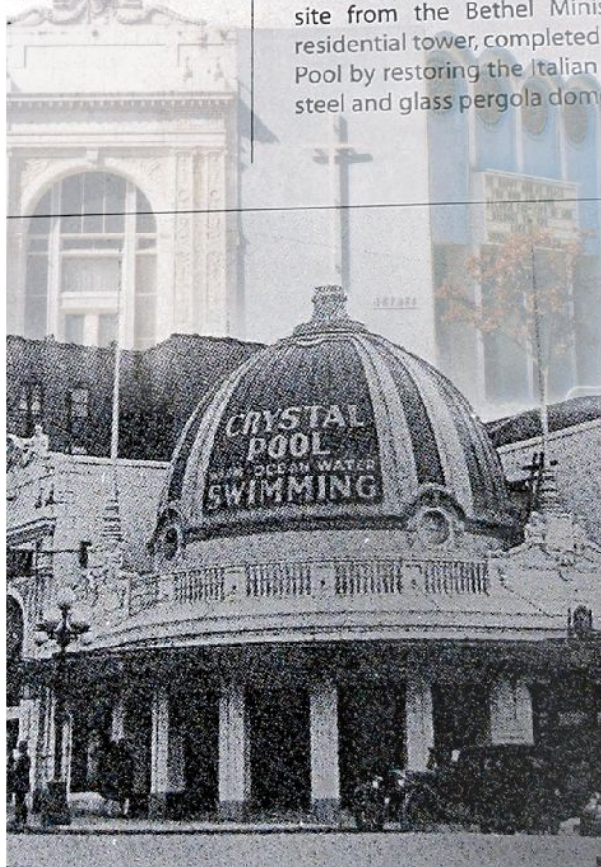
of showcased one of
ra cotta façades in
y pergola dome. The
ertised "warm water
as one of the most
in the city during the
l Seattle's primary
the pool, the city
the hill from Puget
above the pool was
dered a spectacular
y.

closed the building
e and an ice skating
urchased by Bethel
into a church. The
; removed from the



cristalla

At the turn of the twentieth
site from the Bethel Mini
residential tower, completed
Pool by restoring the Italian
steel and glass pergola dom



ベテル・テンプルの 日本宣教



I ベテル・テンプルの歴史

W・H・オプラー師のいやしの証

II ベテル・テンプルの日本宣教

東京都瑞穂町における働き

岩手県陸前高田市における働き

東京都福生市における働き

福岡県久留米市における働き

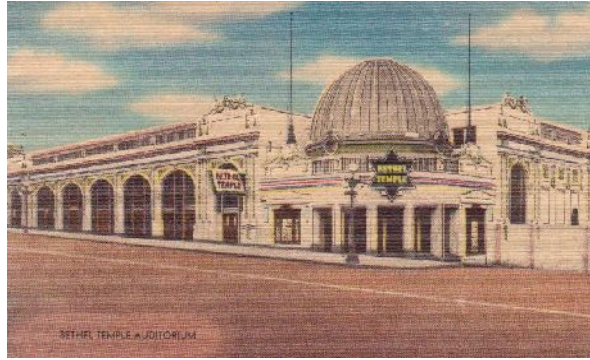
福岡県宗像市における働き

ベテル・テンプルの日本宣教

I	ベテル・テンプルの歴史	1
	W・H・オフラー師のいやしの証	11
II	ベテル・テンプルの日本宣教	15
	東京都瑞穂町における働き	
	瑞穂キリスト教会の歴史	15
	岩手県陸前高田市における働き	
	陸前高田キリスト教会の歴史	17
	東京都福生市における働き	
	福生ベテル教会(秋川ベテル教会)の歴史	20
	福岡県久留米市における働き	
	久留米ベテルキリスト教会の歴史	24
	福岡県宗像市における働き	
	宗像ベテルクリスチャンセンターの歴史	26

ベテル・テンプルの歴史

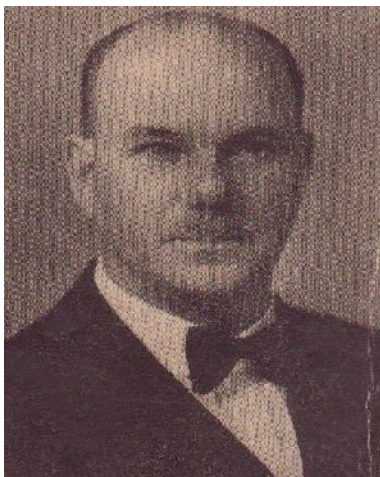
ウィリアム・ヘンリー・オフラー師 William Henry Offiler (英国人、ベテル・テンプルの創設者・牧師)は、アメリカ合衆国北西部におけるペンテコステ運動の偉大な開拓者の一人であった。彼の人生と働きはシアトルの何千人もの人々に深い影響力をもたらし、世界中の人々にも莫大な影響を及ぼした。



ベテル・テンプルは、主を熱心に求める者には、主の恵が注がれる、という真実を物語っている。教会が建て上げられ、宣教師を派遣し、魂が回心し、奇跡がなされる…。こうした出来事は、後に続くあらゆる世代の記憶に留められ、神に栄光をお返しする人々の心に覚え置かれる。

また、聖霊が力強く注がれた初期には、教会は燃やされ、その結果、神は世界中に福音を伝えるための一連の奇跡的な備えを与え、啓示と情熱とをもたらされた。

神が整えた人 1875年



ウィリアム・ヘンリー・オフラー師は、1875年12月20日、英国ノッティンガムに、6人兄弟の3番目の子として生まれた。英国国教会で育ち、1890年、15歳の時サウスウェルの主教によって堅信礼を受け、教会の合唱団メンバーとなる。後年、彼は働きの中で、「私は英国国教会にいた時には、真にキリストに出会ってはいなかった。」と証言している。

しかし、福音に心から感動し、宣教師になるために献身した。訓練を受けている間、オフラー師は宣教師となるために必要な多くの事柄を習得し、彼の人生が示しているように、宣教の重荷を受け取った。

1899年

1898年にイギリスを去り、その後オフラー師はカナダ・パシフィック鉄道で暫く働いた。1899年8月10日には、ワシントン州スポケーンに住まいを設けた。彼はそこでキリストを主として受け入れ、後に聖霊に満たされた。オフラー師は路傍伝道でオルガンを弾いていた若い女性と出会い、心惹かれるようになる。ロマンスはその後発展し、とうとう1900年11月16日、スポケーン市の配管・暖房検査官ケリー・ライリーの娘、ガートルード・ライリーと結婚する事となった。彼女は体が弱かった、しかし神は夫と3人の子供であるハリエット、ウィリアム・エドワード、エディスのとりなし手として数年を彼女に与えられた。

1914年

オフラー師は、彼に対する神の召しに忠実に応え、一家はシアトルに引っ越した。オフラー師は、その年のキャンプで奉仕した事がきっかけとなり、パイン・ストリート・ミッションの教会の牧師になる扉が開かれた。その働きの中で、リバイバルは8年間に渡り継続した。また、シアトルでのミニストリーをしていた当時、オフラー師の家族は3人の子供を亡くすという大きな悲しみを経験した。この喪失の時期においても、オフラー師はイエスから目を離す事無く、奉仕を継続した。彼はキリストの栄光の素晴らしい啓示を経験し、神の決して絶える事のない愛に信頼する事を学んだ。

初期 1914年-1921年

オフラー師のパイン・ストリート・ミッションでの働きは、神が彼にみことばへの洞察力を与えられた事によって、人数的にも霊的にも成長が見られた。オフラー師は神学的な訓練を受けてはいなかったが、多くの人を惹きつけた。そして彼の働きの中で、急速なりバイバルが起こった。8年間、このミッションのリバイバルは継続し、そこでは力が現されていた。祈りと断食はオフラー師の生活スタイルの土台であり、その結果、彼には指導力が与えられ、多くの奇跡が起こり、多くの人々が回心した。このミッションは、群れの急成長に追いつけないほどだった。

(2棟の建物・・・セブンス・ストリートとオリーブ・ストリートの交差点に1

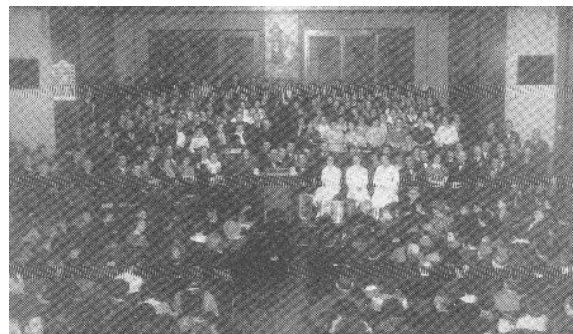
軒、そして後に、バージニア・ストリートに1軒・・・は、後にペンテコスタル・ミッションとアポストリック・アッセンブリーという2つの教会が礼拝する場所となった。)

1921年

ある奇跡的ないやしが起こった結果、最初の宣教師がオランダ領東インド諸島（現在のインドネシア）に派遣された。エミリー・マルクィストは、神のいやしの力によって体がいやされた経験をした人物である。彼女は神への大いなる感謝の気持ちから500ドルをオフラー師に渡した。オフラー師はその500ドルを宣教師達の船賃として献金した。これが宣教の働きの最初の出来事であり、今でもその宣教の働きは続けられている。

ベテル・ temple 1922年

オフラー師と信徒たちは、ブランチャード・ストリートとベル・ストリートの間にあるサード・アベニューという新たな場所に移動した。教会の名前がベテル・ temple と変わり、そこで信徒たちは22年間礼拝を守った。礼拝における神の臨在が何百もの人々を引き寄せ、その人々はキリストを個人的な救い主として受け入れた。遠い国で福音を宣べ伝えるビジョンを受け取り、多くの宣教師がそれぞれの任地へ遣わされるため任命された。土曜の夜の青年向けの礼拝は、街の大きな催しでもあった。若者がリバイバルの雰囲気を経験したいという願いを持って、シアトル近辺から集まった。祈りの霊は、礼拝の前から祈祷室にあふれ、礼拝中も注がれ続け、みことばが語られた後も祭壇の周りに留まっていた。



Bethel Temple, Third Avenue and Bell Street, where the congregation worshipped 22 years and many were called to enter God's kingdom. This picture is of a missionary rally in 1935.

1944年

さらに信徒が増え、礼拝場所が手狭になった。この事について、オフラー師が主に尋ね求めると、主は「クリスタル・プール」（セカンド・アベニューとレノラ・ストリートの交差点にあるビルの事）と語られた。そして数ヶ月の改築工事の後、今までよりもさらに大きなその建物に移った。その頃第二

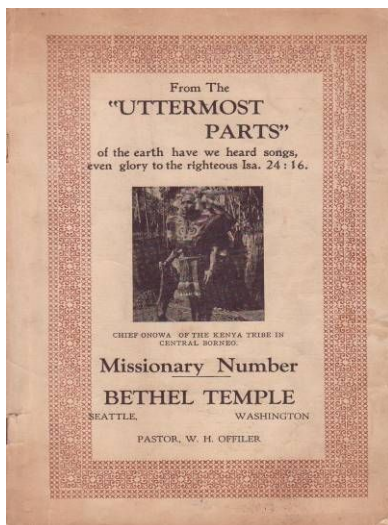
次世界大戦中で、建物を建てるには良い時ではなかったが、神は備えて下さり、多くの人々が助けてくれた。多くの名の知られた伝道者たちがベテル・テンプルで奉仕した。W.V. グラント、ポール・ケイン、ジェリー・オーウェン、J・ハーマン・アレグザンダー、ケルソー・R・グローバー、J.S. イーストン、レオナード・W・ヒーローという説教者たちが聖霊の油注ぎのもとで、感動的なメッセージを語った。そして多くの人々が救われ、解放され、いやされ、主の働きに召された。

宣 教

宣教はベテル・テンプルの90年の歴史の中で、常に最重要項目だった。オフィサーにとってどれほど重要であったのかは、次の彼の言葉に見出す事ができる。

「宣教のスピリットは教会の命だ！ 宣教活動は、自己に死ぬ事、会衆の主に対する献身がなければ、継続できない。この態度が毎日の秩序でなければならぬ。このようなスピリットが人々の上であり、それによって私たちの活動が全てにおいて可能となり、このスピリットが海外宣教において、この教会に素晴らしい評判を与え、今日それは世界中で知られている。」

この紙面では海外での働きという神の召しに応答した75人の名前を全て書き記す事はできない。その国々は、日本、中国、台湾、フィリピン、タイ、インドネシア、モンゴル、インド、パキスタン、ペルシア/イラン、イタリア、パレスチナ、オランダ、スーダン、ウガンダ、バルバドス、コスタリカ、キューバ、メキシコ、コロンビア、ブラジル、グアテマラ、ニカラグア（ラテンアメリカ）、ニュージーランド、オーストラリアである。



ベテル・テンプルから送り出された宣教師の何人かは、現在、公式には福音に扉を閉ざしている国々で福音の種を蒔いたという事を覚えたい。永遠という尺度によってのみ、彼らの大いなる献身が明らかにされるだろう。神のみことばという貴重な「種」は多くの実を結び、多くの場所で繁栄し続けている。全ての栄光は主のものである。

聖書学校における訓練

オフラー師は、神とみことばを知る人々を建て上げる、という重荷を覚えるようになった。1920年代の後半、彼は聖書学校を教会内に設立し、週に一度学びが持たれた。オフラー師は晩年、聖書学校の価値についてこのようしている。

「働きはまだ終わっていないと思うし、教会時代の収穫の時が私たちの上にあると感じている。また、近い将来、聖霊の確かな導きにより神のみことばを明確に理解する時がやってくると思う。だからこそ主のぶどう園で働くあらゆる働き人が、人々の魂の豊かな実りを収穫するために必要とされるのだ。今の世の終わりが明確になってきたように、神の御子はまさに終局の行方を支配されつつある。皆で共に祈ろうではないか。この終わりの時の働き人たちに、教会の頭、主イエス・キリストが何を求めようとも、彼らに十分な備えがあるように。」



オフラー師が話している時、神の臨在が余りにも現実的なものとなり、授業を中断しなければならないほどだったと記録されている。彼も生徒達も、授業が再開できるまで20分かそれ以上、ただそこに座り主をほめたたえる、という事があったそうだ。この学びに出ている多くの人たちは牧師や宣教師になった。

聖書学校は海外の宣教地でも建て上げられ、卒業生たちは今日も伝道を受け継いでいる。

1952年にW.W. パターソン牧師がオフラー師の後継者として、ベテル・テンプル聖書学校を開始した。この時点で2年制のプログラムを始めたが、それは後に3年制のコースとなった。この学校は、ジェイムズ・アップル牧師、C.J. マクナイト、リーナス・ケイブの指導のもとで長年続けられた。生徒たちの訓練はクラスのみならず、路傍での奉仕、刑務所での働き、病院訪問、介護施設、宣教、日曜学校、土曜日の夜の青年向け礼拝で実地訓練も行われた。

キャンプ

1914年以降、オフラー師は多くのキャンプにおいて惜しみなく働いた。毎年行われる集まりは、シアトル周辺のグリーン・レイク、レイク・ワシントン、リ



ミラー・レイク、キャンプ跡地
(現・ベテル・クリスチャンセンター)

バー・ミッションやフォート・ロートンなどで開催された。1934年、ベテル・テンプルは、フェデラル・ウェイのミラー・レイクの土地を購入、1936年からはそこでキャンプをするようになった。近くから、遠くから、多くの人々がキャンプに参加し、そして多くの人々が救われ、いやされ、聖霊に満たされた。キャンプはそれ以降毎年開催され、7月4日頃からレイバー・デイ（労働者の日）まで50日間連続して行われた。キャンプ開催中は二人の伝道師が終始奉仕に当たる事もあった。木製の大きな講壇のもとに祈りの部屋が備えられ、集会の中に主の臨在を求めて祈る人々で一杯になった。

ベテル・ユース・キャンプは1954年に始まり、多くの若者たちに影響を与えた。素晴らしい講師陣や聖霊に満たされたカウンセラーたちが、キャンプ参加者に仕えようと時間を自発的に捧げた。リーナス・ケイブ師は、数人の協力を得ながら34年間忠実にキャンプを組織し指導した。

キャンプが行われると必ず、参加者は人生における重要な事を経験した。多くは素晴らしいクリスチャンであり、中にはキャンプで神に出会った事により、神の働きに従事した人もいる。キャンプ礼拝の最後には、救いと聖霊の満たしを求める子供たちが前へあふれ出してくる事がよくあった。子供たちの上にも、神の目的への献身が起こされていた。

ラジオ放送

1925年にオブラー師は「神と神の聖書」という番組を担当し、ラジオ説教者の先駆けの一人となった。この働きは、彼に続く牧師たちの指揮の下、60年以上も続けられた。このラジオ放送は「主よみもとに近づかん」という歌で始まり「ゲッセマネを忘れないように」という曲で終わった。毎回の放送で、救い、聖霊のバプテスマ、神のいやしの力を語り、神の事を力強く語った。このラジオの働きを後押しする証言が届き、聴衆に神の素晴らしい祝福を伝える事ができた。

神のみことばは多くの人々に語られ、悲しんでいる人々、重荷を負った人々の心を引き上げた。その内の多くは、救いといやしの祈りを受けた。ベテル・テンプルは男性、女性たちがカルバリの丘でキリストがして下さった事を心に刻むようにと願っていた。それは、罪人が、イエス・キリストを信じる信仰によって神が造りかえられる、という素晴らしい体験をしたからだ。ベテルのラジオの働きを通して、多くの人々が永遠に渡る影響を受けた。

ベテル・テンプル 牧師

ウィリアム・H・オフラー牧師
1914-1948

ウィリアム・W・パターソン牧師
1948-1955

ジェイムズ・アップル牧師
1955-1958

C・ジョー・マクナイト牧師
1958-1985

リーナス・R・ケイブ牧師
1985-1986

ロバート・G・ブロードランド牧師
1986-1993

ダニエル・W・ピーターソン牧師
1993-2003



フェローシップ・ミニストリーズ



ベテル・テンプルで始まった多くのミニストリーは、今日でも私たちの霊的遺産のとても大切な部分を占めている。毎月のフェローシップ集会が開かれていた頃、神のみことばと聖なる臨在を求めた祝福の時に集うために、牧師や信徒が、サムナー、イッサクアー、カークランド、カーネーション、グラナイト・フォールズ、エ

レンスバーグ、ヤキマ、トッペンニッシュ、マウントレイク・テラス、フェデラル・ウエー、ボニー・レイクなどから集まってきた。

- ◇ ベテル・テンプル聖書学校の卒業生、ケン・ゴープ師は、ワシントン州ヤキマにケン・ゴープ伝道協会を作り、77カ国で奉仕された。
- ◇ ジョン・ベントン師はベテル・テンプルで育ち、聖書学校を卒業し、その後、ティーン・チャレンジで仕えた。妻エルシーと共に、ニューヨーク州ギャリソンとカリフォルニア州パサディナで、ウォルター・ホービング・ホームを創設し館長となった。そこでは女性の薬物依存症患者や売春婦だった人たちを救出し弟子訓練をした。何百人もの女性が救われ、束縛から素晴らしい解放を経験した。
- ◇ ディック・ベンジャミン師はベテル・テンプルで救われ、アラスカに引越した。そこで妻と共にアボット・ループ・クリスチャンセンターをアンカレッジに創設した。
- ◇ アーネスト・B・ジェンタイル牧師（カリフォルニア州サンホセのクリスチャン・コミュニティ教会を創設）はベテル・テンプル聖書学校より卒業証書を受け取った。
- ◇ ベテル・テンプルからの影響と、またそのみことばの働きによって影響を受けた人々では、オーストラリア出身のケヴィン・コナー博士やニュージーランドのグラハム・トラスコットがいる。彼らは本を執筆し、教えのミニストリーで広く旅をした人たちだ。
- ◇ ベテル・テンプルの素晴らしいフェローシップ・グループには、インドネシアのペンテコステ教会のグループ（現在、教会数10,000以上）があり、また、オランダ、日本、南米、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールにもグループがある。

ベテル・フェローシップ インターナショナル

フロイド・アーリーワイン牧師の指導の下、ベテル・フェローシップ・インターナショナルには牧師やミニストリーのネットワークがある。米国北西部、日本、オランダからの牧師や宣教師達は、親しい連携に満ちるこのフェローシップに頼り、期待している。近年、インドネシアと米国で牧会する 20 人以上のインドネシア人の働き人たちもこのフェローシップに加わった。

シティー・チャーチに加わる

2003 年の秋、ダン・ピーターソン牧師とウェンデル・スミス牧師は都市ミニストリーについて話し合いを持った。当時シアトル東部のカークランドにあったシティー・チャーチは、教会の第一サテライト・キャンパスを街の別の場所に作るようとしていた。キャンパスはシアトルのダウンタウンに購入が考えてられていた。彼らのビジョンは、福音を携え、より多くの人に伝道するために街のいろいろな場所に拠点を作りたい、というものであった。

この 2 人の牧師の会話やミーティングには、聖霊の並々ならぬ油注ぎが特別な形であった。都市中心部にいる人々への働きのため、共同で奉仕する可能性について話し合いは深まっていった。当時ベテル・テンプルはセカンド・アベニューとレノラ・ストリートの交差点にあった建物を売却しており、ミニストリーを継続するための別の場所を探していた。シティー・チャーチは、同じようなスタイル・背景を持つ教会が全く存在していない人口増加中のダウンタウンをターゲットに絞り、ミニストリーを始めたいと願っていたところだった。

2003 年 8 月、ウェンデル牧師とダン牧師は、シアトルで福音の働きを続けるため共に働く決心をした。ベテル・テンプルの役員とシティー・チャーチの役員は、9 月に書面で 2 つの教会の間で合意文書を出し、ベテル・テンプルがシティー・チャーチの家族の一員となった。2 つの教会の共通の使命とシアトル市、またキリストのために世界に出て行くというビジョンにより、持てる資源を用いる事となった。

ベテル・テンプルの霊的遺産を巡る歳月を考える時、そして、その働きが続いている事を知る時、私たちはみな深く心を動かされる。教会は福音のため一つとなった。シアトルのダウンタウン都市部にいる必要を抱えた人々のために、私たちがみことばを宣べ伝え続け、祈り、仕える奉仕は、一つになった教会のミニストリーを通してこれからも続けられていくのだ。

これまでに、多くの祈り、涙、忠実な奉仕がこの街のために捧げられた。それはベテル・templの素晴らしい働きを通して、何世代にもわたる何百、何千もの人々により捧げられたものである事を私たちは知っている。福音のために、私たちが共に働く時、ミニストリーは21世紀も続けられていくと信じる。

1914年以来、ベテル・templはシアトル市において、象徴的な教会であった。オフラー師によって創設され、米国西海岸で最も大きなペンテコステ派の教会の一つとなっていた。また、世界中の何百もの教会を立て上げるために援助をした。その中には、アメリカ北西部の33以上の教会、アジア、その他の地域の多くの教会や聖書学校が含まれる。情熱を持った宣教師達の尽力によって建てられた。ここシアトル市においてもダイナミックなラジオ放送が長年行われた。セカンド・アベニューとレノラ・ストリートの交差点にあった古い「クリスタル・プール」の建物を購入し、2000年までそこにあり続けた。(この場所は、新しいベルタウン・シティー・チャーチ・キャンパスからたった7ブロック離れたところである。)

ベテル・templの遺産に対し、また、多くの神の御心にかなった牧師・宣教師の方々に敬意を表したい。すでに、シティー・チャーチはその多くのメンバーやミニスター、宣教師達を、カークランドにおける教会の家族の一員として受け入れており、それによって祝福されている。私たちの教会は、W.V. グラント師、ディック・ベンジャミン使徒、アーネスト・ジェンタイル預言者、ケヴィン・コナー博士らのようなベテルの影響下で回心し、訓練され、育てられたミニスター達によっても強く影響を受けてきた。

シティー・チャーチは、ウェンデル牧師やジニー・スミスや長老の役員と共に、ベテル・templやその創設者達から受け継いだ豊かな信仰の遺産を継承していくと決意した。私たちは、主の驚くばかりの恵み、奇跡的な備え、福音におけるパートナー達に感謝する。私たちの両方の船がいっぱいに満たされるように(ルカ5章)!

Bethel Temple Heritage
A Journey of Faith and Miracles.
Written by Dan Peterson and Pastor Wendell Smith

いやしの証

ウィリアム・ヘンリー・オフラー師

私は自分がいやされた証を今まで書いた事が無く、又 50 年を越える公の働きの中で書かれた事も出版された事もなかった。しかし数ヶ月前から多くの人たちから私の証を要望されたので、書く事になった。以上、私がこの証を書く理由である。もちろん神に栄光と尊厳があるように。

自分の子供時代には戻るつもりはないが、主が私を取り扱われ始められた頃の事を証する。

私は 1899 年 8 月 10 日ワシントン州に到着した。その時以来 50 年以上にわたってこの州に滞在している。25 歳の時、私がまだアメリカに来る前の事であるが、働き人として英国国教会に所属していた。私が 16 歳の時、サウスウエルの主教によって堅信礼を受け、中央アフリカのサウンダニーズ宣教団体に所属し、外国における主の働きのために何年間か訓練を受けていた。その団体で私は宣教学を学んだ。それは 36 年間にわたるワシントン州シアトルにあるベテル・テンプルにおける牧会の働きの中で、私を大いに助ける事となった。

私は単身ワシントン州に到着した。この大きな国で私を知っている人は誰もいなかった。私は非常に厳粛な気持ちでいた。スポケーン市に着いた最初の晩、私はメインストリートとハーワードの交差点でタバコを吸いながら立っていた。暫くすると路傍伝道のグループがやって来て、小さなアコーディオンを持って半円形になり、私が英国で歌っていた古い賛美歌を歌い始めた。彼らは祈ったり、歌ったり、罪から救われた神の力の証をしていたが、それは実に素晴らしい集会だった。

彼らはそこに 1 時間ほど居た。私はタバコをとくに吸い終わって吸殻を投げ捨てた。彼らは列を作って通りへと向かったのだが、私は興味を覚え彼らが入って行った小さな建物までついて行った。窓には「ゴスペル・ミッション」と書かれていた。私が中に入って後ろの席に座っていると、リーダーが集会後にやって来て挨拶し、「あなたはクリスチャンですか？」と聞いてきた。私はずっと教会生活をしてきたのだ。ええ、もちろんと答えた。彼は一緒に祈らないか？と言うので、ええ、いいですよ、と答え、私たちは共に祈った。私は講壇の前にひざまずき、心から祈った。私は 2 年もの間集会に参加していなかったのだが、彼らは我が家にいるかのように感じさせてくれた。

私のポケットの中には、1日に16時間喫煙するための道具全てが入っていた。タバコ、葉巻、巻き紙にブル・ダーラムとマッチなどだ。しかし私が祈っていた時、何か不思議な事が起こった。コートのポケットが突然とても重くなり、耐えられない痛みが走るほど首が引っ張られたのだ。私の顔には冷や汗が滲み、無意識のうちにポケットに手を突っ込んで中を探ってみた。私はポケットから手に一杯のタバコとパイプ、そしてマッチを引っ張り出しては床に落とした。すると私の片側が不思議に輝いてくるのを感じた。それから反対側のポケットからも手に一杯の同種のを引っ張り出して床に落とした。私を取り囲み祈ってくれていた三人の年配の女性たちは、何が起きているかを察すると、すぐに神への感謝と賛美を力強く捧げ始めた。私が彼女たちを見ると、主の素晴らしい御業をほめたたえながら涙を流していた。そして、彼女たちが主を賛美している時に、私の上に天の素晴らしい栄光と祝福が注がれた。何週間もの間、この栄光は私の心の中に勝利をもたらした。

私と共に祈ってくれた年配の女性たちは、いつも聖書を教えてくれた。彼女たちはクリスチャン・ミッショナリー・アライアンスに所属し、神と人の魂のために懸命に働いていた。来る日も来る日も彼女たちは私を教え、共に祈り、主が私のためにして下さった素晴らしい御業について話してくれた。さて、祈りの霊が私に臨み、私は神に飢え渴き聖書が真実か否かを求めた。そして聖書に記されているイエスの力強い奇跡について、祈りの中で主に伺ってみた。「主よ。これは真実ですか？もし真実なら、今ここにいる私たちのものでもあるのですか？」。

すると、再び祈りの霊が私の上に注がれ、食べる事も飲む事もできなくなり、私は激しく主を求め始めた。私の友人が来て何とか食べさせようとしたが、私の食欲は完全に失せていた。丸三週間が過ぎようとしていた時、一人で部屋にいた時、私は主イエス・キリストと顔と顔を会わせてお会いした。

今、皆さんにこの事をお伝えしなければならない。私はボイラー製作と造船技術者として教育されて仕事をしていた時、顎を強打してしまい、さらに後日フットボール中に再び同じ場所を蹴られてしまったのだ。痛みは徐々に増し、熱い涙が頬をつたうほど耐え難いものとなった。クロロフォルムやアヘンチンキを痛み止めとして使っていたが何の役にも立たず、全ての大臼歯が歯医者により取り去られ、半分は抜歯されて、私の顎の骨は腐敗し始めた。このような状態のままではアメリカに行く決心をして、カナダに渡航した。カナダでは政府の役人からの大歓迎と温かいもてなしを受けた。ドルとセントにすっかり慣れた頃、1898年の事だが、私はメディシンハット市に出向いて行った。私はカナダ・パシフィック鉄道で働いており、眠れない夜を過ごしたある朝、大草原を歩いて線路脇まで来た時に気を失ってしまった。旅客車の機関士が私を発

見し、列車を止めて車両に乗せ、4ヶ月間長期入院する事になるメディシンハット市まで私は連れ戻された。医者達は私の顎を手術し、全ての歯を抜き、顎の骨を削り、4時間ごとのシップ治療を4ヶ月間にわたり施した。

さて、三週間の断食と祈りの話に戻る事にしよう。断食祈祷の22日目の事であるが、私の顎の骨は崩れ、顔は腫れ上がり、口は大きく開き、血と腐敗物が口の中から流れ出した。これが三日三晩続いた。この時、私が祈っていると、声がしてそれが言った。「あなたは、あなた自身が居てはいけない場で祈ってきた。この祈りをやめよ。決して再び聖書を読んではならない。さもないと、さらに悪い事があなたに起こるだろう。」私は動揺し、激しい怒りに襲われた。聖書を手にとるとできる限り遠くに投げ捨てようと言った。「私は生きる限り決して聖書は読まないし、決して再び祈らない。もしこれが何週間もの祈りの結果であるなら、二度と祈らない。」こうした激しい感情に私は支配された。まだ若く、霊的な事については無知であったために、それがサタンの声だとはわからなかったのだ。

私は薬局へ痛み止めになる薬を買いに行こうと飛び起きた。コートを着てドアから出ようとしたその時、私の肩に力強い御手が置かれた。その御手は私を向き直らせ、24日間昼夜ひざまずいて祈っていたまさにその場所に、再びひざまずかせた。一瞬のうちに神が触れておられるとわかった。

私は一人でその場にいた。聖書を投げ、決して再び祈らないと誓った自分の行動に気付いて悔い改めた。神の力が、私に激しく臨んだ。私がひざまずいていると、まるで弾丸に撃たれたかのように突然何かが私の心を打った。それは私の内で炸裂し、すさまじい声を伴い私の口はその御名「イエス様！」と叫んでいた。

神の力は私に押し寄せてきたが、これは以前からあったペンテコステの働きであった。再び心の中で爆発的な事が起こり、大きく開いた口で「イエス様」と叫び声を上げた。海の大波のように押し寄せる神の力に私は呆然としていた。さらに、三度目に私の唇が主の御名を叫んだ時、私は恐れおののいていた。御名が三度宣言された事で、主イエスが私のそばにおられるとわかった。

それからすぐに、主は御手を伸ばし、その人差し指を私の口の中に差し込まれ、上唇と下唇に触れられた。書いている今でもそれが感じられる！

そして、その指が私の顎の骨に触れた瞬間、私は回復した。神の力が触れた途端に私はいやされ、それから私に語る声を聞いた。「神の指が、悪魔を追い出したのなら、神の国はあなたのただ中に来る。」次の瞬間、私は御国の栄光の中に立っていた。私の目は、神の国の栄光と、美しく輝く御座を見た。雲は私の足元にあった深い暗闇よりも厚く、神の栄光の燃え立つような輝きが私を取り囲

んだ。主イエス・キリストは御業を成され、今でも、指の感触と目が眩むような栄光の輝きを思い出す時、神の力が迫って来る。

その指に触れられた経験から長い時間が過ぎ去り、ミニストリーは53年間続けられた。あの日以来、私は千人以上の人々のために祈り、彼らも同じように触れられるのを見てきた。癌は溶けてなくなり、腫瘍も溶け、結核、そしてあらゆる病がいやされた。今日においても、神のみことばに従い、神を信じるなら人々はいやされるのである。血潮により私たちの罪を洗い流して下さった方に、全ての栄光と誉れがあるように。アーメン！

THE TESTIMONY OF MY HEALING

By Pastor William H. Offiler

ベテル・テンプルの日本宣教

東京瑞穂町における働き

瑞穂キリスト教会の歴史



1950年にベテル・テンプルより、メリー・テイラー宣教師が日本に派遣された。彼女はまず羽村において開拓伝道に着手し、そこで韓国人クリスチャンであるチンさんと出会う。この方から瑞穂に住むクリスチャンの田村さんを紹介されたメリー・テイラー師は田村家において家庭集会を開くようになる。この田村家の家庭集会で、田邊恵子師は30歳の時「わたしは世の光…」とのみことばを聞いて救われる。田邊師はそれ以来、テイラー師と共に伝道する。テイラー師は1950年から1953年まで日本宣教に従事した。

メリー・テイラー師は戦後の荒廃した日本の人々に無条件の愛をもってキリストを伝えた。彼女は自ら貧しい生活をしながら、それをいとわず福音宣教のために路傍伝道を継続した。彼女はアメリカで女優となる夢を捨て、日本の宣教師として自らを捧げた愛の器である。



続いて、ベテル・テンプルより、マンフレッドE. アスキュー&ホープM. アスキュー夫妻が宣教師として来日する。アスキュー夫妻により、教会の基礎が建て上げられ、1955年には教会堂と幼稚園が併設され、瑞穂町において幼児キリスト教教育が開始された。1955年には宗教法人を取得した。

当時の伝道方法の中心は、空いている土地を利用した天幕集会であり、この天幕には多くに人々が集まってきた。又特に宣伝する事もないのに、多くの人々が飢え渴いて教会に集まった。



このアスキュー師夫妻の長男がドナルド・アスキュー師（交通事故で召される）で、その働きの中で藤田光康師が救われた。（現在 ネクスト・タウン・ミッション 松坂教会牧師）長女ルース・ナオミ・アスキューは結婚し現在、アメリカのテキサス州に在住。

瑞穂キリスト教会に併設された「瑞穂のぞみ幼稚園」は 1955 年以來 1463 名の卒園生を輩出している。又「のぞみ」はホープM. アスキュー師の「ホープ」より名付けられている。



2010 年には瑞穂キリスト教会も開拓 60 周年を迎え、老朽化した園舎、会堂を取り壊し、会堂を兼ねる新園舎が建設の運びとなった。

現在まで、瑞穂キリスト教会より出身された教職者

森田為吉・エミ子	陸前高田キリスト教会
熊谷栄三郎	花巻キリスト伝道所
伊藤徳衛・アイ	日高キリスト教会
大原そみ(中上そみ)	
藤田光康	松坂教会

岩手県陸前高田市における働き

陸前高田キリスト教会の歴史



開拓伝道開始 昭和 40 年 7 月（1965 年）天幕伝道会からの開拓

教会設立 昭和 58 年（1983 年）7 月献堂

瑞穂キリスト教会で救われた森田為吉師は、ベテル・トレーニングセンターで聖書を学び訓練を受けた。訓練中に、開拓伝道地が東北地方であると明確に示された。その召命に従い、森田為吉師が岩手県内で教会不在地を探すと、陸前高田市には教会がない事が判明した。そこで森田為吉・エミ子師は当時日本のチベットと呼ばれた陸前高田市に赴き、居を構え、困難な開拓伝道に着手する。1965 年 7 月の事である。

まず、夫妻は 1965 年 7 月に 5 日間にわたり、東京からの応援を得て、天幕伝道集会を行なった。この天幕伝道集会では、子供たちが百数十名も集まり大盛況であった。その天幕集会で何人もの人たちが救われた。翌週の 7 月 19 日から 5 日間は大船渡市で天幕伝道を行なったが、そこでも何人もの人たちが救われた。やがて教会は成長し、昭和 58 年には教会堂を建設するに至る。森田師は信徒十数名と共に 100 万円の資金を元に会堂建設に踏み切り、不思議な神の導きによって、単立教会が一切の援助なく教会堂を建設した。

森田為吉師の証

私は、東京都西多摩郡瑞穂町、瑞穂キリスト教会（ベテル、ミッション）で救われた。きっかけは、一人の米軍人からの一枚のトラクトだった、片言の日本語でお読みくださいと渡された。その方は、その後、除隊して日本に宣教師として遣わされ、関西、東京、埼玉県飯能で宣教活動をされた。

召命

私は、ベテル・ミッション・トレーニングセンターで聖書を学び、訓練された。当時、三坂正治先生が、東京拝島、五日市等で、生駒から大きなテントを

持参し、ジョン&ルツ・ベル宣教師夫妻と伝道を開始された時に、お手伝いをする事ができた。良い訓練の場だった。開拓伝道は、やっぱり天幕集会からと思ひ、教会より真新しいテントを持って岩手にやって来た。

なぜ岩手に！

聖書を学んでいる時に、神様、私を何処へ遣わされますか、と祈っていたある日、東北地方をはっきりと示された。宣教師は、伊豆の大島を勧めた。そこへ行けば生活の保証はされているし、サポートもあると言われた。

岩手県で教会の無い市を調べてみると、陸前高田市、当時人口は33,000以上、人口の三分の一は大工、左官の出稼ぎの町だった。また下調べのため、祈祷会が持たれた。その場に、アメリカから宣教師としてインドネシアに渡る途中、足止めされていた若いカップルも参加していた。彼らは私を抱きしめて祈って下さった。彼らも友人、家族とこのような別れをしてきたのだろうと目頭が熱くなった。

夜行列車で上野を発つと翌朝、列車は一関に着き、大船渡線に乗り換えた。ところが、行けども、行けども山また山、心細くなってきたが、2時間30分ほどで、陸前高田駅に着いた。

海あり山あり、町並みも良く15時間以上の旅の疲れもなく、生活の基盤である家を探したがなかった。しかし歩いていると「貸間あり」との張り紙を見つけたので、交渉した。一間の汚い所だったが、雨、風をしのげれば、と思ひ借りた。(後で妻にひどすぎると部屋で泣かれた)

東京に帰り、荷物をまとめて送った。荷物の到着を見計らって、一週間後、東京を発ち、昭和40年7月7日の午前、岩手県民となるために到着した。忘れもしない、雨のしとしとと降る寒い日だった。荷物もまだ着いていなかった。しかし、夕方には届き、「さあ、頑張ろう！！」

当時の、岩手は日本のチベットと呼ばれていた。私たちの住む県南は生活も良く、温暖で果物も豊富で、住む人々は人情厚い人たちだった。

陸前高田市における天幕集会

東京から牧師、献身者、信徒の皆さんが到着し、昭和40年7月14日～18日までの5日間、子供の集会、大人の集会が行われた。アコーディオンを弾き、太鼓をたたき、スピーカで集会案内、静かであった町が突然の出来事に驚いた事と思う。



天幕集会2回目の時の写真

子供たちも、百数十人が集まり暗誦聖句、聖書のお話に聞き入っていた。この子供たちの中から、数名がいまも信仰生活を送っておられる。又牧師として働いている方もおられる。

開拓から、今年 45 年目

このレポートを書きながら、胸が熱くなり涙がこみ上げてくる。神のなさる事は、みな素晴らしいのだ。昭和 40 年 7 月 19 日から 5 日間 隣の町、大船渡で天幕伝道集会をした。三陸津波からあまり経っていなかったのも、多くの被害にあわれた人たちに会うことができ、そして救われた人たちは海や川で洗礼を受けられた。



高田松原海岸での
洗礼式

教会堂建設 昭和 58 年 4 月～7 月



古い家での記念撮影

教会堂建設も不思議な神のご計画の時だった。土地は個人的に以前に購入してあったが、会堂までとは思っていなかった。しかし神は思いを起し、計画へと導かれたのだ。少ないメンバーだったが皆心を合わせて祈った。図面を描き、見積もりもしてもらった。しかし積立金は 100 万そこそこ、皆、若いクリスチャンで教会員十数名、こんなに大きな事業ができるだろうか、人間的に悩んだが、「前進」と言われたクート先生が書かれた言葉に励まされた。

当時、私は勤めながら伝道をしていた。地方では大きな建設会社で、図面を見せ、見積もりをしてもらった。最初は、社員割引で、壱八百万円、二日後に、壱六百万円になり、契約の段階でついに壱四百万円になった。この間、私は金銭に関して一切交渉もしなかった。神が交渉の輪の中に入って下さったのだ。このようにして、単立教会が一切援助無く教会員全員で捧げて教会堂を完成する事ができた。

上棟式風景

その後、会堂建設に加わった兄弟、姉妹の多くは、仕事、結婚などで他県に移って行った。「神の時を知るという事は、大切である。逃す事のないように注意せねばならない。」現在も、村の小さな教会は、健在である。



市民会館での伝道集会風景

1982 年 8 月 22 日

森 田 為 吉

東京福生市における働き

福生ベテル教会の始まり



1952年、ホープ・アスキュー師の姉、ルース・キロネン師が福生で開拓を始め、空軍宣教師のための働きを始める。ルース・キロネン師は、1954年10月15日に487坪の土地を福生市熊川1101に購入し、小さな家が米兵により建てられ、アメリカ軍人のための働きも始められる。1955年4月17日（日）に福生ベテル教会堂が献堂された。献堂式後、1956年にキロネン師は帰国した。

ルース・キロネン師のビジョン

アメリカ軍人の「母」となるために召された宣教師 Ruth Purvis Kyllonen

私はホーマー・アラスカに1943年に初めて赴き、町の近くに小さな教会を建てた。数年後、ホーマーの北17マイルの新しい入植地に家と敷地のための定着地点として杭を立てるチャレンジを受けた。48歳以下の私の友人達は北に来る事を決心し、定着地点の近くの無料の土地に家を建てる事ができた。私たちは間もなくクリスチャン・ファミリーのグループとなり、家や納屋や学校を建てるために一緒に働いた。私の敷地には、もみの木がたくさん生長し、製材所もあり十分な材木が得られた。教師達も加えられ、子供たちにも教育がなされるようになった。私の息子ハズも通信教育を受けたが、友人ができなかったので、アンカレッジから来た宣教師に家を売り、息子のためにシアトルに帰った。やがて息子も兵役に入り、アラスカへと行った。

私も自由の身となり、どこの宣教地にも赴く事が出来るようになった。間もなく瑞穂にいる兄弟ホープと私の夫に横田基地近くの瑞穂の働きに加わるように招かれた。私の夢は、アメリカ軍人のためのクリスチャン・ホームを開く事であった。その年の内に私は通訳の西森末次郎夫妻のために教会を建て、日本人のため働き始めた。多くの人々が救われ、1957年、私が去る前には111名の人々にバプテスマを授けた。

その後、キロネン師は引退も考えたが、フランスにあるシタロウ基地で働くもこの基地の閉鎖によってシアトルに戻る。ところが彼女は姪を空港に送る時に、ベトナムに行く

兵士達 30 名を見かけた。

ある青年が見送りに来た母親に「お母さん。僕はきっと戻るから」と慰めている声を聞いた。その帰り道、「このような時のためにあなたを訓練してきた。」との声なき声が私に語りかけ、私は主に従うために、ベトナムに赴いた。最も激しい場所に住む予定であったが、フランスにいたチャプレンからそこは非常に危険な場所であるとの連絡を受け、タイに向かった。以後台湾の基地のそばで、1971 年基地の閉鎖までの期間働いた後、シアトルに帰郷した。

Ruth Purvis Kyllonen, called of God to be a missionary “mother” to American Servicemen. より翻訳

極東軍人の家 (Far East Serviceman’s Home FESH)

1956 年 6 月、日本の横田空軍基地に近くにある、小さなミッションの教会でリバイバルが起こった。その頃、福生ベテル教会の夜の集會に集まった多くの人々はアメリカ軍人であった。チャールズ・ハーデン Charles Hardin 師が牧會していた。彼らは、日本人にイエス・キリストの福音を広めようと務め、トラクト配布を行なった。

福生ベテルでの夜の集會が一杯となり、ウイリアム・K・ゲイロード兄弟は、自宅を開放して集會を開いたが、毎晩人々であふれたために、新しい広い場所を探した。「極東軍人の家」の資産は、合計で 88 坪の土地、小さなワンルームの家、それは宣教師ルース・キロネン師の土地に建てられていた。「極東軍人の家」役員会は、小さな家を福生ベテル教会の宣教師ルース・キロネン師の 88 坪の土地に隣接している 61 坪の土地と交換した。又「極東軍人の家」はこの小さな土地に建てる事は効果的ではないと考え、新たな用地を探し始めた。

このようにして、ルース・キロネン師のビジョンによる「極東軍人の家」は、福生ベテル教会とは別れ、今日横田インターナショナル・クリスチャン・アセンブリーとして、現在もその働きを継続している。

YOKOTA INTERNATIONAL CHRISTIAN ASSEMBLY 50th ANNIVERSARY
ANNIVERSARY MEMORY BOOK
(HISTORY OF THE HOME)

福生ベテル教会の日本人教会の始まり



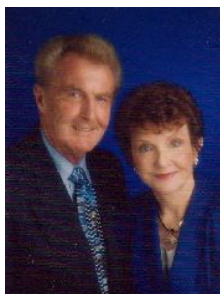
1956年ジョン&エルシー・ベントン師が来日、1957年には宗教法人に加入する。当時、西森末次郎師が通訳として働いていた。ベントン夫妻は、帰国後ティーン・チャレンジの働きに加わり、その後独立して、ニューヨークとカリフォルニア州で「ウォルター・ホービング・ホーム」を開始する。(麻薬・依存症・売春婦の女性たちのクリスチャン更生施設)



1958年にはアルフレッド&ウイルダ・ベイド師夫妻が、インドネシア、中国を経て日本の宣教師として来日。中国においては孤児院をしながら伝道していた。



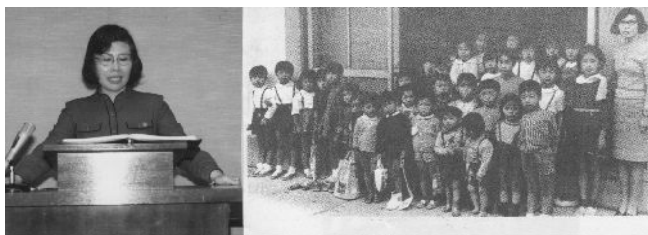
クライド&イボンヌ・ベイド師の働き



1961年クライド&イボンヌ・ベイド師が来日、宣教師館がアルフレッド、クライド・ベイド師の二人によって建て上げられ、当時、保育園、ベテル聖書学校が行われて何人もの働き人が育てられた。やがて三ツ木茂師は通訳者として働いていた筆美代子師と結婚、暫く福生ベテル教会の牧師として働くが、退職する。この頃、岸野英子師、明田雅子師（アライアンス教団）が救われる。

東京あきる野市における働きが始まる

1970年4月19日にあきる野市に新しい教会堂「秋川ベテル教会」を建設し、ベイド宣教師と共に岸野英子師が開拓を始める。この時、福生ベテル教会に集まっていた会衆を二分し、福生と秋川両方に分割する。福生ベテル教会には大宮守・恵師を招聘して牧会がなされる。



秋川ベテル教会では、1970年5月15日から「秋川栄光幼稚園」

が始められ 1985 年まで 15 年間にわたって幼児教育を通して秋川における働きがなされた。出身者には東京メトロチャーチの林恵美子牧師、中国宣教、工藤浩誠宣教師がいる。

大宮師が牧師に着任した後、1970 年 5 月津坂良夫師が救われる。この頃、福生市加美平団地、熊川住宅において、土曜学校を通して子供達への伝道が行われていた。大宮師が退職後、1971 年には小石泉・美智子師が牧師として着任、福生駅周辺、青梅市において伝道集会を行った。3 年後には退職し船橋に開拓。

1975 年昭島市中神で家庭を解放して家庭集会で伝道していた西村正三兄・きくよ姉が福生ベテル教会の副牧師として任命を受け、ベイド師と共に牧会を始める。その年、津坂良夫師は召命を受けアッセンブリーの中央聖書学校に入学する。1978 年西村正三師は 6 月に召され、神学校を卒業した津坂良夫・のり子師が副牧師となる。2 年後 1980 年 津坂夫妻は牧師として按手を受けた。



1990 年に、秋川ベテル教会は献堂 20 年を祝い、福生ベテル教会は 35 周年を祝う。岸野英子師が退職し、久保木尊史・真由美師夫妻が副牧師に着任。1995 年に、福生ベテル教会は新会堂を建設し、秋川ベテル教会と福生ベテル教会が一つとなり今日に至る。

津坂牧師夫妻

福岡県久留米市の働き

久留米ベテルキリスト教会の始まり

フレイジャー師夫妻の来日

メアリー・ベス・フレイジャー

日本到着 1960 年

「1960年、私たちの家族5人はシアトルを後にして、最も安い日本の貨物船で日本に向かった。私たちはアブラハムのように、何処へ行くかを知らないで出発した。ただ知っていた事は、主が私たちを遣わされた事であり、私たちは主の御心に本当に従いたいという願いであった。夫のジョージは朝鮮戦争時に日本にいたが、まだ救われてはいなかった。彼は帰国後救われ、日本人に福音を伝えるために日本に戻りたいと思ったのだ。

その時、私たちは28歳、キャサリンは4歳、シャロンは3歳、ディルは1歳だった。二週間の船旅を終えて、東京に上陸した。この航海は私たちにとって素晴らしい体験となった。



それから、私たちは福生に行き、アルフレッド&ウイルダ・ベイド師と共に過ごした。熟練した宣教師であった彼らは、私たちの両親のように世話して下さいました。

それから、私たちは夜行で神戸に向かった。神戸では他の宣教師に会う事ができた。フィル・ラウンズ宣教師夫妻は私たちにとっても親切にしてくれた。

九州での働き

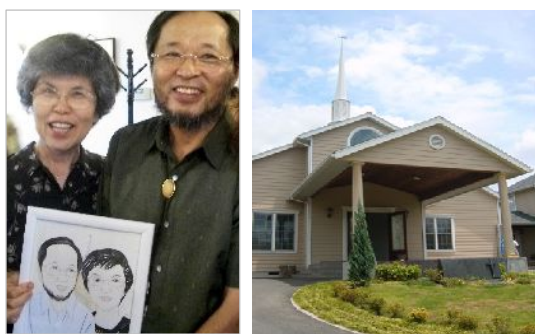
九州ではアーサー・グレイル宣教師と一緒に働いた。彼は天草と言う有名な島に住み、教会と孤児院を始めていた。彼が私たちのために小さな家を準備してくれたので、そこでの生活が始まった。しかし私たちは日本語を教えてくれる人を見つけられなかったので、もう一度東京に一年間戻る事にした。私たちは福生に住んで夫のジョージは学校に入学した。

ベイド師の友人の宣教師が教会を始めたので、私たちは座間基地に行き、そこで協力して働き始めた。そこからやがて九州での働きをするための通訳者を

見出す事ができた。

やがて私たちは九州の島原に戻り、古い家を借りて改修してからそこで教会を始めた。先程の姉妹と一緒に住んで通訳者として手伝ってくれた。この頃、久留米の宣教師から天幕集会で話してほしいとの依頼があり、何度か訪れた。その宣教師はハワード・ラースン師である。しかし彼の妻が病気のためにアメリカに帰国しなければならなくなった。そしてラースン師からここでの働きを継続する事を依頼された。しかし私たちはすでに島原での働きを始めていたので、祈り続けた。やがて、私たちは島原に住みながらもこの久留米での働きをする事を決め、その土地を整地して教会を建てた。私たちはそこで、8名の献身者たちを訓練した。そして38年間の日本での働きを終えた。

吉田有年



吉田有年・孝子牧師夫妻

1962年 ジョージ・メアリィ・フレイジャー来日。米国ワシントン州シアトルのベテル・テンプルより派遣された福岡県久留米市国分町にて米軍のカマボコ兵舎払い下げを解体リホームして宣教活動が始まる。

1969年 新会堂建築

1974年 フレイジャー師 牧会退任

吉田有年師 牧師就任

2000年 教会移築（久留米市上津町）敷地 600坪購入、駐車場 2300坪借入

2007年 さらに牧師参入 工藤ゆかり師 大久保望師 吉田一誠師

2010年 吉田有年師 牧師退任

枝教会 福岡チャペル、国分チャペル

出身牧師

下川省三牧師	小郡市 召天
日高すみ子牧師夫人	屋久島 召天
石崎政登牧師	久留米市小森野
牛居はるみ牧師	神戸市
池田光枝牧師夫人	神戸市
稲福よし子牧師夫人	東京
北村康宏牧師	宮崎
吉田有年・孝子牧師	久留米
工藤ゆかり牧師	
吉田一誠・望牧師	



福岡県宗像市における働き

宗像ベテルクリスチャンセンターの歴史

ニルス・オルソン



ニルス&アンドレア・オルソン牧師

2005年10月からの宗像ベテルクリスチャンセンター（MBCC）の歴史

宗像市は日本の福岡県に位置している。

私たちは最初の4年（1978年－1982年）もともとジョージ&メアリー・フレイジャーによって監督されていた久留米ベテルキリスト教会において日本語と日本文化、そして日本人の考え方を習得した。

1982年の春、私たちは聖霊が新しい務めに導かれていると感じ、新しい一歩を踏み出したのである。いろいろな地域を探して数ヵ月後、私たちは宗像市がその場所であると確信させる聖霊の御声を聞いた。

1982年9月、私たちは九州の福岡市と北九州市の100万人都市の間にある、宗像市に移動した。当時の宗像市の人口は58000人であったが、現在94000人にまで成長している。その頃はそこには、二教会を合わせても150名のクリスチャンしかいなかった。

しかしながら、それ以来、プロテスタントとカトリック教会の協力関係がリーダーたちの一致により築き上げられた。宗像市は大きな神社や多くのお寺があるととても宗教的な町である。この町に引っ越したばかりの時であったが、聖霊が私たちを通して、この世の神がむなしくなり、町に住む人々の全ての家庭や家族に神の栄光が流れていくように祈り続けた。

1983年までに、私たちは借家で礼拝を始めた。私たちの家で仕事が始まる前の10ヶ月間、私たちは地域社会にある店舗との関係を建て上げていた。初めの特別集会の一つは、大きなホールで有名なクリスチャンの映画を上映した事だっ

た。その映画会の収穫は、町の人々が私たちの教会の存在を知り始めた事である。特別伝道集会は私たちが最初の回心者数名を得た同じホールでもたれた。また、水のバプテスマは我が家の風呂や近くの池や海で行なった。

1983年から1992年までは私たちの教会の先駆けとなる段階であり、今日、教会の柱となっている人たちが導かれ、教育された長い過程であった。ゼロからの出発、その時私たちは彼らに「救い、水のバプテスマ、聖霊のバプテスマ、礼拝、十分の一献金、そして聖霊の賜物」について教えた。全てこれらの原則は今日においても教会の中で実行されているし、また教会の中で神のみことばが真実である事を確認している。まさに今日、教会の中で聖霊が働かれる事で、私たちは励まされ、建て上げられている。

1991年、私たちが借りている土地の持ち主が「私たちは引っ越さなければならぬ」と告げた。なぜなら彼の仕事のために新しい建物のための道を造るため、前に造っていた建物を壊さなければならなかったからだ。私たちはとても失望してしまっただ。なぜならもっと長くそこに留まる事ができると考えていたからだ。すると直ちに、聖霊が思いの小さな声で語りかけられた。「土地を離れなさい、そして建てなさい。」それは聖霊であったと確信している、なぜならそのような考えを決して持っていなかったからだ。私たちは未来の建物のためにただ7000ドルしか所有していなかった。しかしながら、不動産業者に行き、土地を借りるために尋ねた。神は再び恵みを示して下さった。そして家の持ち主は私たちが当初賃借りして宗像の教会を始めた現在の教会の土地を貸してくれる事を許可してくれた。

その時、地所はそのまわりに大きな擁壁を持ち、水平にしなければならなかった。神は初めから終わりまで不思議な備えをして下さった。アラスカのコルドバにある小さな教会が擁壁を建て水平にするために31,000ドルを捧げて下さった。その時、ベテル・テンプルは建物に150,000ドルの最初の支払いの38,500ドルを慈悲深く備えてくれた。ベテル・テンプルの前役員のマイク・ダウズ氏の死において、生命保険が当時のベテル・テンプルの宣教師達に平等に分配された。私たちの分は彼の思い出の中に建物へと入金された。今はもうないがワシントン州カーネーション市にあるベテル・タバナクルはその教会の建物基金2,000ドルを捧げて先のベテル・テンプルのインドネシア宣教師であるボブ・エドマンドソンは1,200ドルを捧げてくれた。ベテルチャペルのあるミラー・レイクに長い間住んでいる、ネリー・ホスターから宗像の建物基金に指定された20ドルの「ペンテコスタル・ハンドシェイク」は私の特別な思い出だ。

神は奇跡的にすべてのもの、正に芝生の中の草の葉にいたるまで、すべての費

用を準備して下さった。私の心の中に植えられた、御霊による信仰の賜物によって支払いが文字通りに全ての支払いを完全に終わるまで信じた。最後の支払いがなされる時、日本で特別献金がなされ、全ての支払いを終えた。宗像ベテルクリスチャンセンターのための神に全ての賛美があるように。主の教会なのだ！それはベテール、神の家である。

その完成以来、MBCC は日曜礼拝、バイブルスタディ、結婚式、葬儀、コンサート、英会話教室、バザー、などなど多くの人々の集まりのために用いられた。私たちが引っ越して以来、23年の月日が流れ、町の人口が増えてくるのを見てきた。町に対する私たちの愛は衰える事なく、むしろ人口増加のように大きくなっている。町の教会は二教会から十教会へと増えてきた。私たちの願いとビジョンはもっと大きな、私たちが自分の土地だと呼ぶ事ができる、町にいる多くの人々の増加に提供できる永続する土地の一つとなる事だ。

MBCC の発展は旧約聖書と新約聖書の発展のようなものだ。第一にモーセの幕屋は間に合わせの住まいだった。私たちは賃貸しの家だったが、すぐ大きくなった。第二にダビデの幕屋はもう一つの一時的な住まいの場所だった。私たちの第二番目の住まいは、持ち主が建てる永続的な新しい建物を建てるための道を造るために壊された。第三のソロモンの神殿は永続的な建物として建てられたが、しかしそれは結局壊され、イエス様が来られるために道を造った、そしてよみの門は打ち勝たない主の教会が建てられた。

私たちが MBCC のために最終的な住まいとしている予想は、非常に大きな土地を購入し（土地の所有権を手にして、完全に支払った建物）私たちが自分自身のものであると呼ぶ事ができる事だ。私たちはその事を信じて度々告白している。

過去 4 年半の間、MBCC はその施設が合わなくなるほど大きくなった事が、教会のリーダー達に教会の拡張と建て替えを話し合うきっかけを与えた。



2009 年、教会は、音楽やミニストリーのために、後ろに 6mほど会堂を延長する事でさらに大きくし、講壇を広げ、建物を建て替える事に合意した。教会と牧師室を区切っている壁を動かして、子供たちの増加に適応するために子供の部屋を二倍にした。追加された土地には、ミーティングルームや新しい教会と牧師の事務所を作った。

日本ベテル・ミッション 発行
197-0003 福生市熊川 1101
福生ベテル教会内
042-551-1327
fussabethel@gmail.com